

# 私のまちの「近い遺産」～文化財の活用による地域活性化～



那須塩原市  
那須塩原市役所 生涯学習課 企画政策課

16班 コミュニティデザイン学科  
建築都市デザイン学科  
社会基盤デザイン学科

鈴木溪佑 室井奈津美  
大越勤平 橋本結  
金子瞬

## (1) 先行プロジェクトについて(令和元年度)



①現状：那須塩原市内の文化財が日本遺産に登録  
→認知度が低く、十分な活用に課題



- ☑ 那須塩原駅にアンケートパネルを設置
- ☑ 観光客へのヒアリング調査
- ☑ 大学生対象の書面アンケート

②地域活性化に向け調査・提案



## ③観光ドライブコースおよび案内パンフレットの製作

## (2) 調査の目的

日本遺産とは？世界遺産と何が違う？

	目的	対象	登録
日本遺産	地域の文化財を保護活用し <b>地域活性化を図る</b>	地域の魅力を伝える「ストーリー」	文化庁
世界遺産	遺産を保護管理し、未来へ伝える役割	文化財や自然などの不動産が殆ど	ユネスコ

### 日本遺産

「**明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～**」  
ろまんたん

- ① 那須塩原市と周辺地域の文化財が一つのストーリーに
- ① 宇都宮市大谷と同年の2018年登録
- ① 日本遺産登録をきっかけに、地域のブランド力向上を期待  
→**那須塩原市民に郷土への理解や誇りを持ってもらう**



写真1：乃木希典那須野旧宅 (現地撮影)



写真2：千本松牧場内 松方別邸 (現地撮影)

## (3) 現況分析

### 現状と課題

- ☑ 那須塩原市：近年多くの移住者  
→土地や文化、風土に興味
- ☑ 自治会規模でツアーを開催 →持続的な活動が難しい
- ☑ 市内の小学校にて郷土教育
- ☑ 日本遺産に対し3年間の補助金  
→今年度で満了、来年度以降の維持管理に疑問

### 明らかにすべき項目

- ☑ 地域活性は住民認知から。  
どのように日本遺産をPRするか？
- ☑ 持続可能な広報・教育活動を行うにはどうしたらよいか？
- ☑ 住民のため、観光客のための日本遺産のそれぞれの在り方はどうあるべきか？
- ☑ 文化財を経済的に維持していくために何が必要か？

## (4) 現地調査について

### 現地巡検(2020/11/6)

地域パートナーと実際に那須塩原市の日本遺産を巡り、現地の文化財について学習 (写真は現地撮影)



写真3:旧青木家那須別邸



写真4：大山参道



写真5:那須疎水旧取水施設

- ☑ 私有地で立ち入り禁止の構成文化財が多い(松方別邸・大山参道の境内など)、認知のために活用すべきでないか
- ☑ 観光地化されていない文化財の保護にも市として投資すべきか
- ☑ 文化財の敷地内をたくさんの地元住民が散歩  
→馴染みの場所として、文化財の背景にも興味を持ってほしい
- ☑ 管理者がいなくなった場合、文化財を今後維持していくことは可能なのか
- ☑ 那須野が原博物館の活用拡大  
→地域のことを幅広い分野から深く学べる数少ない施設

## (5) 今後の展望・まとめ

### 那須塩原市民にインタビュー(12月～1月予定→断念)

- ☑ インタビュー調査：アンケート等に比べ質の良い回答が得られやすいメリット、情報の偏りに留意
- ☑ ターゲット設定のプロセス：「日本遺産/文化財について質問したい」地元の自治会、市関係者など、こちらから大まかな希望を伝える  
→実際にインタビュー先を決定、その人に合わせて質問事項を整理
- ☑ **日程の調整がうまく進められず、調査を断念**

### おわりに・プロジェクトを通して

- ① 昨年度に行われた先行プロジェクトにおいて、文化財による地域活性化の最終目標は「県外に発信すること」であった一方、今年度はまずは地元住民の興味関心を高めることが先決であると考え、本プロジェクトでは対象となる人々を市民向けとした。
- ① 2ndサイクルで実施した現地巡検では、漠然とした現地のイメージははっきりしたことで、1stサイクルの事前調査では見えてこなかった課題を明らかにしたり、文化財を「保存」でなく「活用」することについての考えを深めたりすることができた。
- ① 社会情勢が目まぐるしく変化する中で、調査を最後までやりまることができなかったのは誠に遺憾であると同時に、多くの人が関わるプロジェクトを進めていくことの難しさを感じている。